

学生のための政策立案コンテスト 2018



Pチーム 政策案

～野菜CUP～

格差是正による低所得層の
野菜摂取可能な環境の整備。
栄養バランスのとれた消費を形成。



1

現状分析と問題領域特定

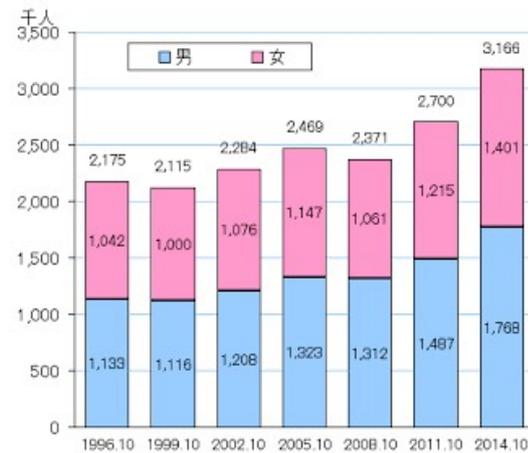
- ・現代日本における生活習慣病患者の増加が問題になっています。平成22年段階で9兆円の医療費がかかっていることも、その重大性の裏付けになっていると考えられる。そして、厚労省の調査によれば1996年から2014年までで生活習慣病の中でも代表的な糖尿病の患者人数が1.4倍に増加しているというデータもあり、早急に対策しなくてはならない問題としての重要性が窺える。
- ・生活習慣病の主な原因として食生活における栄養バランスの乱れがあり、栄養バランスを改善することで生活習慣病の予防は可能。
- ・しかし、食生活における栄養バランスの乱れを改善するには、相応の経済力が必要であり、事実低所得者層は高所得者層と比較して、明らかにその能力が欠如。具体的には低所得者層は野菜の摂取量が高所得者に比べて少ないだけでなく、厚労省の提示している350(g)という基準に満たしていません。その理由として、穀物など十分に摂取できている食品に比べ、野菜類を十分に摂取しようとした際価格的に負担が大きくなりがちな点が考えられます

表2 所得と生活習慣等に関する状況(20歳以上)

※世帯の所得額を当該世帯員に当てはめて解析
 ※★は600万円以上の世帯の世帯員と比較して、群間の有意差のあった項目

	世帯所得 200万円未満		世帯所得 200万円以上～600 万円未満		世帯所得 600万円以上 200万円 未満		★	★
	人数	割合または は平均	人数	割合または は平均	人数	割合または は平均		
穀類摂取量(男性)	423	535.1g	1,623	520.9g	758	494.1g	★	★
	(女性)	620	372.5g	1,776	359.4g	842	352.8g	★
野菜摂取量(男性)	423	253.6g	1,623	288.5g	758	322.3g	★	★
	(女性)	620	271.8g	1,776	284.8g	842	313.6g	★
肉類摂取量(男性)	423	101.7g	1,623	111.0g	758	122.0g	★	★
	(女性)	620	74.1g	1,776	78.0g	842	83.9g	★

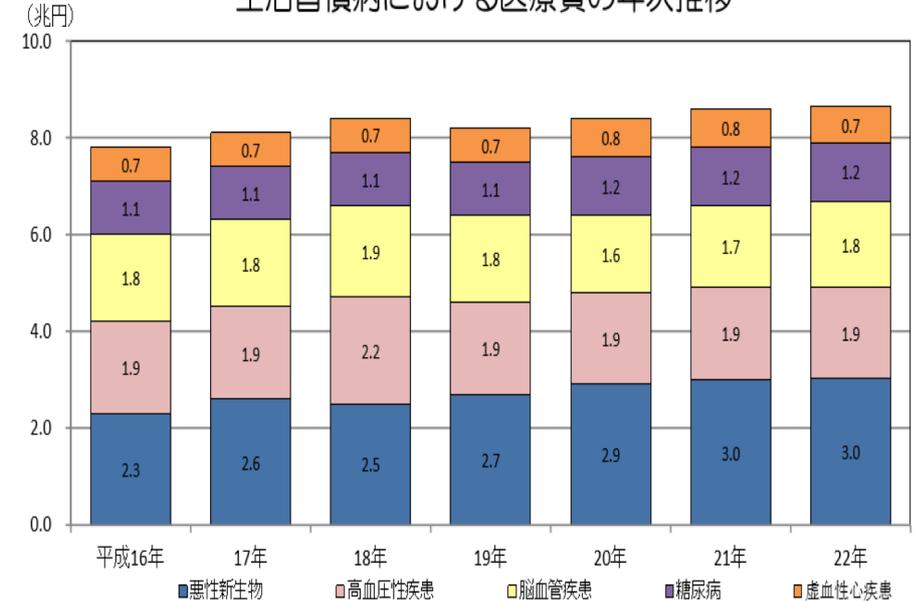
糖尿病の総患者数



(注) 総患者数とは調査日に医療施設に行っていないが継続的に医療を受けている者を含めた患者数(総患者数=入院患者数+初診外来患者数×平均診療間隔×調整係数(8/7))。2011年調査については東日本大震災の影響により宮城県のうち石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

(資料) 厚生労働省「患者調査」

生活習慣病における医療費の年次推移



[資料] 厚生労働省「国民医療費」

理想状態の妥当性

理想状態：

『経済的要因に関わらず、栄養バランスの良い食生活を送ることができる環境の整備。
それによる生活習慣病患者の減少』

中長期的視点からみた、段階を踏んだ政策設定

野菜類を安価に入手できる制度の確立

**「社食などの援助のない、非正規雇用
などの低所得層をターゲット」**

→低所得者層の野菜摂取を可能に

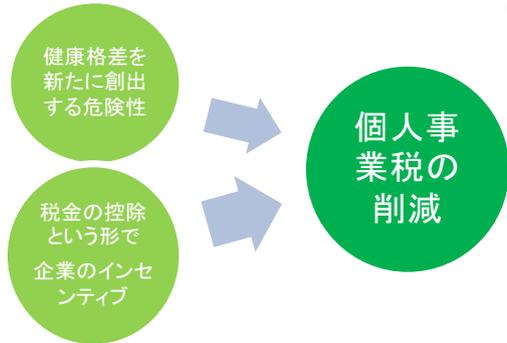
バランスの良い食事への誘導

**「低所得から範囲を広げ、第一
段階で低所得層が経済的に買え
ない状況を改善した上で、多く
の人々が自然と健康な食事をと
るようになる**

→栄養バランスの乱れが改善された状態

→生活習慣病の患者数の改善

政策案 2 『バランスの良い購入促進のためのフェアを開催』



企業が協賛してくれるようなインセンティブを創出するためにも個人事業税の削減を行う。

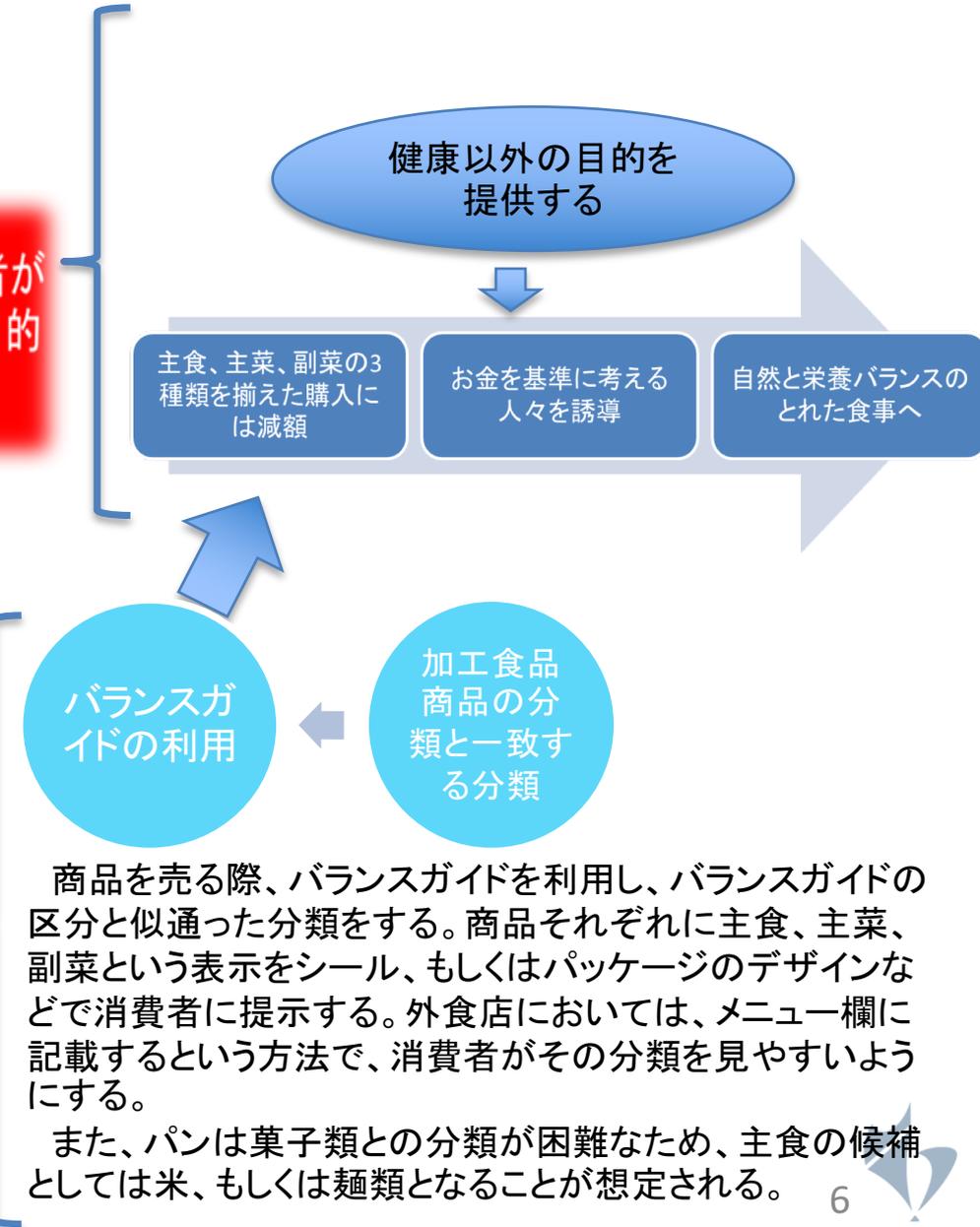
インセンティブを確保するために、どこの飲食店やスーパー共通してかかる個人事業税を控除の対象にする必要がある。法人税だと、地方で個人経営している飲食店を法人ではないから控除対象としない、とすると健康格差を新たに創出する危険性があるため、個人事業税にする。また、個人事業税は県税であるため、県へ補助を行う必要がある。

企業が協賛する理由を提供

自然と栄養バランスの取れた食事を購入

バランスの良い購入方法を消費者に提示

健康以外に消費者がバランスよく買う目的を提供



政策案 3 『フェアをきっかけとした意識向上』

第二段階

バランスの良い購入方法を消費者に提示



第三段階

通年の提示



栄養バランスを常に意識させられる環境の整備

- ・バランスガイドを学校教育などで学習はしますが、日常で意識することは多くない。しかし、これによって日常での意識を高めることができる。